

日 時：平成27年5月11日（月）18時30分～20時20分

場 所：碓ヶ関公民館

対象地区：駅前・下町・仲町・おかりや・上一・上二・高田・山の上・三笠・川向・
いざよい

参加人数：25名

■意見交換（まち・ひと・しごと創生への取り組みについて）

内 容
<p>○事業の実施時期について （市民からの要望・質問） 資料の実施時期が書いていない事業について、実施時期を知らせてほしい。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・「ふるさと旅行券事業」は年内には実施するが、具体的な方法は協議中である。・「福祉商品券交付事業」については、7/4～12/31まで。・「お出かけ・買い物支援事業」も、7/4～12/31まで。・「農業者生活緊急支援事業」は、広報5月号に募集記事を掲載予定であり、実施時期は7月中を予定している。申し込みは個人で行うこととなる。・「ひらかわ婚活事業補助金」は、商工会で事業実施となる。商工会の方でいつ頃に設定するかは、まだ分からない。・「地域元気支援事業費補助金」、「商談会等出展事業補助金」は、中小企業、個人事業者が対象であるので、担当課から追って通知があると思う。・「イベントPR用ねふた運行事業」は、8月までにはねふたを製作し、9月以降に派遣し、運用できるよう進めている。・「観光施設もてなし環境整備事業補助金」は、近々、観光施設などに照会になると思う。・「駅前イルミネーションプロムナード事業」は、年越しに併せてLEDイルミネーションをやりたいと考えている。11月中には設置したい。・「学力向上対策事業」は、従来からやっている制度である。財源振替の形となる。・「平川市情報発信事業」は、プロモーションビデオ制作を早い時期に作成したいと考えている。・「地方人口ビジョンの策定」は、人口ビジョンを年内に作成するよう進めている。・「子育て住宅支援補助金」は、随時受付しており、5/15までで締め切りとなる。まだ、予算の枠も残っているので、建てる予定などあれば子育て支援課に問合せいただきたい。
<p>○ふるさと旅行券事業について （市民からの要望・質問） 市内の人は対象にならないのか。</p> <p>（市の回答）</p>

- ・ 県外、市外から人を呼び、地域消費を喚起しようという目的がある。対象は、市外の人
が市内の宿泊施設を利用することが基本である。市内の人は対象とならない。
- ・ 平川市に外から人を呼び込みたいということがある。7月までに準備をし、8月～10
月に周知を予定している。11月～3月頃までの冬場で、あまり観光客が来ない時期に
誘客することを目的としている。

○ふるさと旅行券事業について

(市民からの要望・質問)

お金の面だけを補充するのでは誘客は見込めない。市外の人に来たくなるような観光PRも必要ではないか。

(市の回答)

- ・ 市内にいくつかの宿泊施設があるが、宿泊料1万2千円以上の場合に6千円を助成する。
宿泊施設にはさまざまなオプションを付けてもらい、1万2千円以上の宿泊料金になる
ようにプランを組んでくださいということになる。通常の宿泊料金が8千円の場合、残
り4千円のオプションプランを付ければ対象となる。
- ・ 各宿泊施設がプランを設定しながら、旅行会社や旅行サイトに載せていただくこととな
る。旅行関係者にPRをお願いするしかない。
- ・ 平川市の観光を盛り上げていく対応として、観光協会ともタイアップなどしている。
- ・ 昨年度から津軽南の観光ということで、旅行雑誌のるるぶで全国に発信している。尾上
地区の盛美園、猿賀公園、また田舎館村の田んぼアートなどを組み合わせた観光ルート
を発信している。

○学力向上対策事業について

(市民からの要望・質問)

教員のサポートをする学習支援員が17名とのことであるが、1校当たり何人という形
で算定しているのか。フルタイムの勤務か。

(市の回答)

- ・ 学習支援員は、毎日4時間の勤務である。
- ・ 小規模な学校は1名、大規模な学校は2名を配置している。市内に小学校9校、中学校
4校あるが、小学校が手厚くなるように配置をしており計17名となっている。

■要望、質疑応答

内 容
<p>○防犯灯の電気料について</p> <p>(市民からの要望・質問)</p> <p>市内の防犯灯の電気料について、公共の施設であるので市が支払うべきだと思う。交通 安全、防犯のために設置されているものである。町会で支払っているようだが、防犯灯は 公共の設備であり、町会で設置したわけではないので電気料は市で支払うべきだ。</p>

(市の回答)

- ・防犯灯の電気料については、昨年も各町会からお話をいただいた。
- ・電気料は町会内にある街灯は町会で、町会と町会の間にある防犯灯は市で支払っている。自分たちの町会内にある街灯の電気料については、今後も町会に支払っていただきたいという姿勢に変わりはない。
- ・電気料の負担が大きいとの話があったことから、今年度市内全ての街灯、防犯灯をLED化する。事業費は9,698万7千円かかるが、電気料の負担が半分くらいになる。LED化により各町会の負担が減り、街灯も明るくなる。また、電灯自体も長寿命化となる。
- ・コミュニティ補助金を町会に出しているが、これを集会所の維持、地域の事業など自由に使えるものとして補助している。この補助金を活用していただきたい。
- ・旧平賀町では町会内の街灯は町会で設置、管理をしていた。町会の中の防犯灯は町での区別があった。旧尾上町でも、旧平賀町と同様であった。
- ・旧碓ヶ関村では、全てのものを防犯灯と称して、旧碓ヶ関村が設置、維持、補修し、電気代を支払ってきた。
- ・合併協議の際に、旧平賀町、旧尾上町、旧碓ヶ関村の制度が違い、これをどのように統合するかという議論になった。理想は旧碓ヶ関村の制度を採用し、全てを行政が行うことであるが、財政状況も踏まえた上で、碓ヶ関地域が平賀、尾上地域に併せることができないかということで町会長を交えながら話をしてきた経緯がある。
- ・電気料の負担が大きいという話があることから、コミュニティ補助金を集会所の維持や街灯の電気料に充当しても構わないので、この補助金を活用して維持、管理するようにお願いをしている。

(市民からの要望・質問)

コミュニティ補助金で賄ってほしいとのことだが、電気料の全額を市で負担しているのか、内8割を負担しているのかなど、具体的に教えて欲しい。

(市の回答)

- ・街灯の電気料全額を市で負担するとは言えない。旧平賀町、旧尾上町と、旧碓ヶ関村の歩んできた経緯が違う。合併協議の中で話し合いをし、今の状態になったとのことである。町会の中の街灯については、地元負担をお願いする。
- ・防犯灯、街灯は全て行政でとの考え方もあろうかとは思いますが、協議をした中で決めてきたことである。電気料負担が大きいとの話があることから、コミュニティ補助金の活用、LED化することで町会の電気料負担を抑えるようにしている。

(市民からの要望・質問)

旧碓ヶ関村では、電気料を村で支払っていたが、旧平賀町ではどのようにしていたか。

(市の回答)

- ・旧平賀地区は、東北電力と契約をする際に町会の中の街灯については町会で契約をし、町会で電気料を支払っていた。町会と町会間の防犯灯については町で契約をし、町で支払っていた。

(市民からの要望・質問)

碓ヶ関行政連絡協議会の会長をやっていた時に出た話である。当時は私も反対をした。市にお金が多くあれば、市で負担したであろうが、そうはならなかった。

平賀、尾上地域に比べれば、碓ヶ関地域は街灯の数が多い。碓ヶ関の町会によっても、電気料の負担は何万円も違い、碓ヶ関地域全ての街灯の電気料を合算し、それを世帯の均等割で支払ってはどうかと提案したこともある。町会によって負担する額に開きがあり、このような不満が出てきているのではないか。

(市民からの要望・質問)

防犯灯の電気料の問題は、以前から話をしている件である。町会費から支払っていれば、1人世帯と5人世帯とでは1人当たりの負担額に不公平が出るのではないかと話をした。この話をしたところ、コミュニティ補助金の制度が出来た。

コミュニティ補助金を電気料に回してもいいとのことであるが、この補助金を無くしてその分の財源を防犯灯の電気料に当てた方が良くと思う。

町会費を納めない人がいれば、隣人が電気料を多く負担することになる。

(市の回答)

- ・どの街灯にLEDを付けるかについては、町会のどこに付ければ良いか打合せをしている。LED化するに当たって、街灯の個数が多いのであれば市役所に相談してほしい。
- ・コミュニティ補助金については、町会を活性化するためにさまざまなことに使っていただきたいということで出している。街灯の電気料だけではなく、集会所の維持費、町会の活動費に自由に使えるものである。
- ・人口が減り高齢化していく中で、地域が一つになっていくことは大事なことである。そのための活動費として使えるのが、コミュニティ補助金である。
- ・合併前までの旧碓ヶ関村のシステムと合併後のシステムが違い不満もあると思うが、市全体を見たらうで、合併時に協議し決定したことである。ご理解願いたい。
- ・町会によって街灯の数が違うとの話が出た。昨年度各町会から要望を取り、街灯の数の増減をどうするかなど意見を伺っている。これに基づき今年工事を行う予定である。
- ・コミュニティ補助金は地域のまとまりで、その地域を活性化するイベントをやってほしいということが一つのねらいとしてある。
- ・昔は集会所で冠婚葬祭も行われ、集会所を貸出しし収入を得ていたが今はほとんど行われなくなった。これにより町会収入が減り、平賀、尾上地域では集会所の維持管理が大

変であるとの話が出た。

- ・集会所の維持管理費、街灯の電気料、活性化する事業費に当てて良いというものが、コミュニティ補助金である。

○町会会員の募集について

(市民からの要望・質問)

新聞記事に八戸市で町会会員を募集するという記事があった。平川市では、町会に入っていない人に対して、加入するように話をしているか。

ごみについても町会に指導員がいるが、町会に入っていない人もごみを出す。回覧板についても町会に入っていないければ、回っていかないという心配もある。

(市の回答)

- ・市でも、地域の町会に加入することは大事だと考えている。
- ・昨年度から市では町会加入促進事業というものを展開している。転入、転居により新たに町会に加入された方に対して、市指定ごみ袋や紙ひも等の生活支援グッズを提供している。
- ・転入、転居の際には必ず市役所の窓口に来られるので、その際に町会加入のチラシを配布し、町会加入をPRしている。
- ・碓ヶ関地域に関しては、町会に入っていない人も何人かはいると思うが広報は見る事ができる状況にあると理解している。
- ・ごみは集積所に出すので、町会に入っていないなくても出すこととなる。
- ・平賀地域では町会に加入しない人も出てきている。特にアパートが多い町会では、町会への加入を勧誘しても断る人が多いようである。このことから昨年度より、支援グッズを配布し町会に加入するように促進事業をやっている。
- ・定住促進ということで、子育て世帯の住宅購入への支援をやっている。昨年は申込みが51件あり、市外から転入した世帯が15件ほどあった。このような方々にも町会に加入してほしいとお願いしている。
- ・自分たちが暮らしている地域は、自分たちで良くしていくという思いを持っていただきたい。この思いを持っていただければ、これからの少子高齢化が進む中で、地域づくりが難しくなってくると思う。皆さんと話し合いをしながら、皆さんと思いを一緒にしたいとのことで懇談会を開いている。

○路線バスについて

(市民からの要望・質問)

弘南バスが湯ノ沢の旧碓ヶ関関所で待機している。このバスの路線をあいのり温泉まで伸ばせないか。定期便を走らせてほしい。

(市の回答)

- ・どういう状況で、旧関所のところで待機しているのかなど、弘南バスと協議しないといけない。できるかどうかを協議してみる。

○工場のがれき撤去について

(市民からの要望・質問)

碓ヶ関駅の近くに斎藤縫製の工場があったが、その工場のがれきが目立つので早く整備してほしい。奥羽線も通っており、印象が悪い。

(市の回答)

- ・碓ヶ関地域では、市で確認しているだけでも198件の空き家がある。
- ・斎藤縫製のところは、昨年現場を見た。道路から見ると何でもないが、線路側から見ると、景観が悪いと感じた。景観上からも何か対策しなければならない。
- ・建物の登記に抵当権が2つ設定されている。この権利関係が、対応を非常に難しくさせている。弁護士に相談をし、どのような手続きが必要か検討している。裁判を起こす方法などあるが、手続き上の課題もある。土地は市のものなので、市でやらざるを得ないと考えているが、手続きに時間がかかっている状況である。

○路線バスについて

(市民からの要望・質問)

碓ヶ関と平賀を結ぶ路線バスを走らせてほしい。3ヶ月、6ヶ月の試行運転でもいいので実現できないか。試行運転の結果を受けて、路線バスを走らせるかどうかを判断できないか。ニーズ調査が必要ではないか。

(市の回答)

- ・碓ヶ関地域の人は経済圏が弘前市だと思うので、弘前方面へのバスに多く乗っていると思う。
- ・運行してみないとどの位の乗客がいるか分からないが、かなりの経費がかかる。スクールバス等でも他県での事故以来、基準等が上がり委託料も増えている。実現は厳しいと思う。
- ・市が平賀などで事業をやる際には、各担当課で碓ヶ関地域から訪れる人のために市のバスを出したりしていると思う。ご理解いただきたい。

○観光案内所について

(市民からの要望・質問)

観光振興を図るのであれば、4月から12月位まででもいいので、平賀駅前に観光案内所を開けないか。観光協会が観光客の案内もしているが、観光に訪れた人から、駅で降りても観光案内する所がどこにもないという話も出ている。

(市の回答)

- ・平賀駅での乗降客が、今は非常に少ない。平賀駅での乗降客が多ければ、案内所設置の効果があると思うが、需要と併せながら考えないといけない。
- ・案内所を作るにしても、平賀駅前に作ったほうが良いのか、平川市全体を見た上でどこに作れば良いのかなどの検討も必要だと思う。

○側溝への流水について

(市民からの要望・質問)

冬期間、公民館前の水門を開け、側溝に水を流してほしい。水利関係の人が水門に鍵を掛けているようだが、1cm でもいいので水門を開けてもらえないか。碓ヶ関支所に開けて欲しいと要望に行ったが、下流部の側溝の水が溢れたこともあり開けられないと言われた。

(市の回答)

・かんぼの宿があった頃は、廃湯も少しは流れていたと思う。廃湯が無くなった影響もあると思う。もう少し水利関係者とも協議を試みる。

○市議会の傍聴について

(市民からの要望・質問)

市議会へ傍聴に行きたいが交通手段がない。バスなどを出してもらえないか。

(市民からの要望・質問)

市議会の傍聴に何度も行っているが、電車を使い往復2時間かかっている。交通費も2千円以上必要だ。市で傍聴希望者がいるか聞いてみてはどうか。議会広報などで、記事が発信されているが、実際に見ることで感じるものもあると思う。

また、傍聴者の控室がない。新庁舎を建てる際には、傍聴者も利用できるような多目的な部屋を作ってほしい。

(市の回答)

- ・議会傍聴は、インターネットがあれば見ることができる環境は整っている。総合支所のテレビに映すという方法もある。
- ・年配の方は、インターネットの利用は難しいと思う。支所で申込みを取ってもらい希望者が多ければ、市で移動手段を考えてもいいのではないかとと思う。交通手段を用意することができるかを検討する。
- ・傍聴者への控室を今すぐ用意することは難しい。新庁舎を建設する際には検討したい。
- ・新庁舎については、どこに建てるか、またワンストップサービスのためにどのような配置にするかなど検討している。平成31年度には運用したいと考えている。

○碓ヶ関地域の将来について

(市民からの要望・質問)

合併し10年になるが、碓ヶ関も変わったと感じている。黎明郷、かんぼの宿が無くなり、あづましの宿も昨年から休館ということで寂しくなった。

温泉などに行くと、市役所新庁舎の話や小中学校の生徒数が減り、小中学校が一緒になるのではないかと、また生徒がもっと減り碓ヶ関地域から学校が無くなるのではないかとという心配の声も出ている。

5年、10年先に碓ヶ関がどのような形になっていかなければならないのか、そしてまた、私たちがどのように覚悟して、また我慢していかなければならないのかということが

大事になってくると思う。

新庁舎をどこに建てるかなど話も出ているが、平賀や尾上の話はいらぬ。碓ヶ関がどのようにしていくのかを分かりやすく知らせてほしい。

(市の回答)

- ・ひと・まち・しごと総合戦略のなかで、人口ビジョンというものをこれから作る。国の機関の人口推計によれば、現在3万3千人の人口だが、20年後には2万2千人まで減ると推計されている。
- ・人口が減少する予測のなかで、人口の減少を抑制する政策をどのようにするかを総合戦略として作っていく。
- ・平賀、尾上、碓ヶ関それぞれの地域の人口ビジョンというものも作っていく。何もしていないと碓ヶ関地域の人口が何人まで減っていくのかというものを作っていく。
- ・人口が減っていくなかで、人口を少しでも増やす政策、また減少幅を抑制する政策を市で考えようとしている。20年後、40年後にどのようになるのかを考えていかなければならない。その中で、手を打たなければ碓ヶ関地域はどのようにしていくか、また、そのようにならないために、市ではどのような手を打っていくのかということ年内にはお示しできると思う。
- ・行政がやるほかに、碓ヶ関地域の方にも自分たちの地域をどのようにしていきたいのか、また、そのために自分たちも協力をしていこうという思いも大事になってくる。

○防災無線の利用について

(市民からの要望・質問)

現在、全国交通安全週間である。新たに整備した防災無線で交通安全週間だということを啓発できないか。以前の放送設備では年4回放送していたが、新しい防災無線になったら、支所の担当者に放送できないと言われた。交通安全週間中に、1回でもいいので放送できないか。

(市の回答)

- ・防災無線は防災情報の放送が主である。しかし、小学校などの資源回収なども放送されている。もう一度、確認をしてみる。